



塩原
しおはら

大山供養田植の賑わいが
小奴可の里にこだまする

① 塩原の大山供養田植

しおはらのだいせんくようたうえ

不慮の死に見舞われた牛馬の霊を供養し、現在飼育している牛馬の安全と五穀豊穡・家内安全を願う祭りで、田植踊り、供養行事(たなくぐり)、しろかき、田植太鼓、お礼納めの5つの行事で構成されている。

昭和43年1月12日に広島県無形民俗文化財に指定され、さらに平成14年2月12日には国の重要無形民俗文化財に指定された。かつては、不定期に公開されていたが、平成10年から4年に1回の現地公開をしている。

→P30、31参照



田植踊り

たうえおどり



田植歌を歌う頭取

たうえうたをうたうとり

代かき

しろかき



②
塩原大山(多飯ヶ辻山)
 しおはらいせん(おいがつじやま)

東城町の塩原と井河内との境に高くそびえる姿のまことに美しい山は、地図の上には多飯ヶ辻とあるが、頂上に牛の神大山さん(大仙さん)が祭られているので、塩原では「塩原大山」、井河内では「井河内大山」とよんでいる。

この山には、深谷という大変険しい谷があり、放し飼いにしていた牛が転び落ちて、死んだり大けがをしたりしていた。そこで、塩原の人が相談して、伯耆の大山さんを勧請して守ってもらおうと、わざわざ伯耆国まで出向き、御分霊をいただいてきて、石橋屋(屋号)の2階におまつりした。ところがそれ以来、不思議なことにその家の倉に毎晩、家鳴りが起こるようになった。

「こりゃあ大山さんのご機嫌が悪いけえじゃ」とみんなで集まって話し合った末、今度は高田(屋号)の裏山の桜の木の下

に祠を建てておまつりした。それからしばらくは何事も無かったが、高田の家で材木にするために祠のほとりの桜の木を伐ると、今度は高田の家で牛馬が死んだり、難産をするなど、まんが悪いことが続きだした。

「こりゃあいけん。大山さんはもったきれいで高い所が好きなんじゃろう」と村の人たちはまた相談して、とうとう大山さんをその付近で一番高くてきれいな多飯ヶ辻のてっぺんにおまつりしたという。

大山祭りの日には、大山さんのおかげを受けようと、周囲の村のどの家からも牛をきれいに飾り、衣装鞍をつけ、のぼりをたてて、この高い山に集まって来るようになった。日頃は人影の無い山の頂上にも、この日ばかりは露店が立ち並び、大変賑わったという。



④
太山地蔵
 だいせんじぞう

多飯ヶ辻の大山社で毎年春秋に行う行事の参道入り口と東城及び所尾への道しるべである。安永(1772~1781)七戌年と記してある。

現在は昭和45年の集中豪雨で参道の一部が崩壊したため、約300m南側に参道(登山口)を設けている。



③
太山社
 だいせんやしる

多飯ヶ辻の山頂に祀られている。

古文書によると古くから仮勧請されたものを宝暦年間(1751~1764)に本勧請したと記されていることから、宝暦以前の時代から祀られていたものと思われる。



5
三界万霊等碑

さんかいばんれいとうひ

家族同様に暮らした牛馬の供養や安全祈願のために建立された。

宝暦(1751~1764)十辰四月廿四日の期日が記してある。



6
塩原の夫婦桜

しおはらのめおとさくら

胸高周囲 3.2m

樹高 約15m

樹冠東西 約20m

持ち主 長谷川許行

場所 成松正隆宅の北側



7
医王寺

いおうじ

多飯ヶ辻の中腹に伯耆の天台宗大山寺の末寺として、約700年前に開山した。本尊は薬師瑠璃光如来である。開山(1681)よりさらに300年古い作と言われ、歴史の変遷を説明する唯一の寺宝である。



8 石神社

いしじんじや

石神明神は多飯ヶ辻の峯より降り給いた石体で年々太って大きくなっていると伝えられている。その地を「降り神」と称し、今の社地に還られたと伝わる。

1825年(天保年間)国郡誌
石をご神体とし、猿田彦大神を祀り
石は年々長大となる。

9 石神社の狛犬ならぬ仔牛像

いしじんじやのこまいぬならぬこしうぞう

石神社には通常の狛犬の他に仔牛の石像もある。
石神社の前にある田んぼでは、塩原の大山供養田植の現地公開が4年に1回行われる。



10

有縁無縁三界万霊等碑

ゆうえんむえんさんかいばんれいとうひ

徒歩の道から荷車道に変わるころ、工事の安全と通行の安全を祈願して地元の有志が建立したものと思われる。文化(1804~1818)九申七月日と記してある。向かって左側の碑には「ぎゅうばのため」と記してあり、牛馬の霊の供養と安全を合わせて祈願している。



11

辻地藏

つじじぞう

道しるべの役目と三面像が通行の安全を見守っている。文化(1804~1818)十三子年と記してある。